

	主な指摘事項	対応（案）
1	1.8メートル以上についても1次調査で判定できる基準を示すべき。一方、事例が少ないのであれば、慎重に判断すべき。いずれにせよ、シミュレーションを提示して議論すべき。	1.8メートル以上の場合のシミュレーションを提示し、議論する。 （資料4・資料5）
2	総二階建ての場合、2次調査で判定が下がる傾向がある。	総二階建てと一部二階建てを区別することは難しいため、引き続きモデル住家を対象に検討する。
3	外力のあり・なしで差がある部位については、理由を明確にすべき。	ご指摘の通り修正する。（資料6）
4	外力あり、外力なしの判断基準が分かりにくいいため、写真を示すなど、現場で混乱が生じないよう、基準を明確にすべき。	写真を含めて基準を示す。（資料7）
5	内水氾濫時の1次調査で傾斜を測定する場合があるため、水害フローに参考として記載した方が分かりやすい。	ご指摘の通り修正する。（資料8）
6	土砂堆積等の地盤被害の場合、液状化等の地盤被害フローを活用する場合があるため、参考として水害フローに参考として記載した方が分かりやすい。	ご指摘の通り修正する。（資料8）